

〔科目名〕 地域形成基礎論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門
〔担当者〕 野坂 真	〔オフィス・アワー〕 時間:随時(授業時に伝える連絡先へアポを) 場所:主に研究室(相談希望者と調整の上で決定)	〔授業の方法〕 講義・演習
〔科目の概要〕 日本の地方にはそれぞれに個性を持つ地方都市や農山漁村が多く存在している。そうした多様な個性を生かすことで地域は持続し、日本社会全体の「面白み」もつくり出されているとも言える。では、地方都市や農山漁村の多様な個性に気づきそれを生かすにはどうすればよいのか？他方、地方では少子高齢化と人口減少、地域経済の停滞などその地域が持続する上で大きな課題も存在している。こうした課題はなぜ生じているのか？さらに、地方での災害が多発し突如として地域の姿が変えられてしまうこともある現在、地域が被災しても個性が失われない、あるいは新たに見出せるようにするにはどうすればよいのか？地方を取り巻く課題と地方の多様な個性、両方を的確に捉えられないと、日本社会全体の「面白み」が希薄化してしまう恐れもある。 本授業では、現在の地方を取り巻く課題の実態とそれが生じてきた歴史、課題に対応しようとする地域の事例を学び、地域の個性を生かした振興方策を検討する。地域の事例は、「文化」と「産業」(特に地域産業)が地域の個性と密接であるという前提のもと、①中心市街地の空洞化や限界集落化に悩みながらその地域にしかない「文化」を見直し発信する地方都市と農山漁村、②後継者不足に悩みながら高度な技術の継承や地域外とのつながりに誇りや生きがいを見出す「地域産業」の産地、③地域の「文化」や「産業」が災害で大きくダメージを受けた後に再び地域を形成しようとしている被災地、という3種類に分けて学んでいく。最終的に、学んだ知識を活用し、受講者にとって身近と思われる青森市が持つ個性は何か、その個性がどのように成り立っているか、地域振興にどのようにつながりうるか調べて発表してもらい、受講者全体で意見交換を行う予定である。		
〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 日本の各地方では、「東京圏への一極集中」の是正を目指す地方創生に向けた政策や取り組みが行われている。その背景には、日本の全自治体の約半数にあたる 896 自治体が消滅可能性自治体であるという「地方消滅」問題、そして地方に比べて出生率が低い東京圏に若い世代が集中することで日本全体での人口減少に結び付くという政府の見解があり、いかに若い世代に地方へ関心を持ってもらうかが日本社会全体の大きな課題となっている。その際、地方で生じている様々な課題の実態を的確に調べそれに向き合いつつ、東京など大都市部にはないその地域だけの価値をいかに見出し発信できるかが極めて重要となる。地方での災害が多発し突如として地域の姿が変えられてしまうこともある現在、地域が被災しても個性が失われない、あるいは新たに見出せるようにする仕組みも必要である。 地域の個性を生かした振興に注目する本授業は、その地域だけの価値を見出す視点や方法を学ぶ機会になる。その視点や方法は、若い世代に地方へ関心を持ってもらうことを目指す地方創生に受講者が今後関わる上で活用できる。また、現在の地方を取り巻く課題の実態とそれが生じてきた歴史を学んだうえで、具体的な地域での取り組み事例も参照しながら課題への対処方法を検討するという本授業での経験は、自分が見出したその地域だけの価値を客観的に分析し直し、より具体的な取り組みにつなげていく上で重要である。将来的に、行政機関の地域振興関連部署、地域に根差した事業を行う民間企業やNPOなど非営利組織で働く上で必要となる能力を育成することにつながるだろう。 本授業と特に関連が深い科目は「地域リーダーシップ論(1 年秋期必修)」、「地域社会論 I (2 年春期選択必修)」、「地域社会論 II (2 年秋期選択必修)」である。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (1) 地方における地域社会の現状と課題を、それらが生じてきた歴史的背景もふくめて多面的に理解できる視座を身につける。 (2) 地域振興を検討する上で重要となる分析の視点を身につける。 (3) 身近な地域でできる地域振興の方法を検討し、その結果をまとめ発表することで、情報リテラシーやプレゼンテーション能力を身につける。 ※(1)、(2)は第 11 回までに行う講義形式の授業で達成する中間目標である。(3)は中間目標を達成する中で身につけた力を活かし、第 12 回以降に行う演習形式の授業で達成する最終目標である。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 本年度から担当者が改まったため、該当なし。		
〔教科書〕 特になし。資料を各回で配布する。		
〔指定図書〕 特になし。		

【参考書】

地域社会学会編『キーワード地域社会学』（ハーベスト社）2011 年

野坂真著『地方社会の災害復興と持続可能性―岩手県・宮城県の東日本大震災被災地からレジリエンスを再考する』（晃洋書房）2023 年

その他、必要に応じ授業内で指示する。

【前提科目】

特になし。

【学修の課題、評価の方法】（テスト、レポート等）

・授業後に、各回のテーマや内容について関連情報を探すなど独自に調べものをした上で、感想文を書いて毎回提出すること。提出された感想文の内容に基づき、成績評価を行う。

・授業内に行うグループワークへの参加姿勢や最終発表資料の内容に基づき、成績評価を行う。

・各人への最終レポートを課し、その内容に基づき成績評価を行う。

【評価の基準及びスケール】

・授業への参加の主体性（質疑応答やグループワークでの発言内容の妥当性や発言回数など）＝25%

・毎回提出する感想文の内容（着眼点の鋭さ、調べものの的確さなど）＝25%

・最終発表および最終レポートの内容（検討方法や検討結果の妥当性など）＝50%

※最終発表を行わない場合、最終レポートを提出しない場合、いずれか1つでも当てはまると単位は取得できない。

※評価基準は以下の通り、大学の基準に準ずる。

A:80 点以上

B:80 点未満 70 点以上

C:70 点未満 60 点以上

D:60 点未満 50 点以上

F:50 点未満

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

・事前学習として、授業スケジュールに書いてある各回のテーマについて、事前に関連する新聞記事やインターネット記事、文献等を調べておくこと。また、自宅と大学との行き帰り中に出会う青森市内の風景に関心を向け、なぜそうしたまちの姿になっているか考えをめぐらせておく。これらの過程で気づきを得たことはノートなどにまとめておくこと。

・授業中は、自分が考えたこと、他の学生や講師からの発言で重要と感じたことなどは、忘れないうちにノートなどにまとめておくこと。また、授業中にディスカッションやグループワークの時間を設けるので、積極的に講師や他の受講者とコミュニケーションを取るよう心掛けること（ディスカッションやグループワーク時に情報検索することも可とするため、スマホやノートPCなど情報端末を授業に持参することを推奨する）。

・事後学習として、授業中にノートに書いたことをふまえて関連情報を探すなど独自に調べものをして、感想文を書いて次回授業までに提出すること。提出した感想文は次回授業時に学生同士で見られるようにするので、他の学生が書いた感想文を読み自分の考えを相対化し深めるよう努めること。

【実務経歴】

該当なし。

授 業 スケ ジ ュ ー ル

第 1 回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション―地方を取り巻く課題と地域の個性の重要性― 内 容:本授業の趣旨を理解するため、地方創生や地域が持つ個性を生かした地域振興がなぜ重要なのか、地域の事例の一部とともに説明する。本授業の進め方など事務的な説明を行う。 教科書・指定図書 特になし
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):日本における地域開発政策の変遷と地方創生政策 内 容:全国総合開発計画から始まる日本の地域開発政策の歴史を学ぶことで、現在の地方が抱える課題が生じてきた背景と最新の地域開発政策である地方創生政策の特徴を理解する。 教科書・指定図書 特になし
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):地方都市の衰退・農山漁村の限界集落化と内発的発展による文化的価値の再発見 内 容:なぜ地域の個性を生かした地域振興を検討する上で文化の視点が重要か学んだうえで、外部の助けを借りながら地域主体で地域づくりを行うことを重視する内発的発展論の視点から、地方都市と農山漁村においていかにその地域の文化が持つ価値が再発見されうるかを検討する。 教科書・指定図書 特になし
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):地方都市の事例研究(1) 盛岡市における旧城下町文化の保存活用 内 容:地方都市の一例として岩手県盛岡市を取り上げ、旧城下町の歴史・文化を生かした地域振興の取り組み例を学ぶ。

	教科書・指定図書 特になし
第5回	テーマ(何を学ぶか):農山漁村の事例研究(2) 田子町における農山村振興 内 容:農山漁村の一例として青森県田子町を取り上げ、農山漁村における歴史・文化を生かした地域振興の取り組み例を学ぶ。 教科書・指定図書 特になし
第6回	テーマ(何を学ぶか):地域産業産地の盛衰と地域産業論からの再評価 内 容:国内外の地域産業論の視点から、地域産業が抱える課題を学ぶとともに、地域産業には地域文化に新たな価値を付加するなど地域の個性を生かした地域振興を考える上で重要な意味があることを学ぶ。 教科書・指定図書 特になし
第7回	テーマ(何を学ぶか):地域産業産地の事例研究(1) 輪島市における漆器産業の変遷 内 容:地域産業産地の一例として石川県輪島市を取り上げ、地域産業が地域に与える影響やそれに従事する人々の思いから、地場産業を生かした地域振興の取り組み例を学ぶ。 教科書・指定図書 特になし
第8回	テーマ(何を学ぶか):地域産業産地の事例研究(2) 輪島市における観光産業の変遷 内 容:地域産業産地の一例として石川県輪島市を取り上げ、広義の地域産業である観光産業が地域に与える影響やそれに従事する人々の思いから、観光産業を生かした地域振興の取り組み例を学ぶ。 教科書・指定図書 特になし
第9回	テーマ(何を学ぶか):多発する自然災害からの復興と求援・受援力 内 容:国内外の災害社会学の視点から、災害など大きな危機が地域を襲った際に、地域の個性を尊重しながら地域主体で復興を進めていく上で何が重要となるかを学ぶ。 教科書・指定図書 特になし
第10回	テーマ(何を学ぶか):大規模災害被災地の事例研究(1) 大槌町における災害復興過程 内 容:東日本大震災で大きな被害を受けた農山漁村の一例として岩手県大槌町を取り上げ、地域の文化や産業が存続の危機に直面した中で再び地域を復興させようとしている取り組みの例を学ぶ。 教科書・指定図書 特になし
第11回	テーマ(何を学ぶか):大規模災害被災地の事例研究(2) 気仙沼市における災害復興過程 内 容:東日本大震災で大きな被害を受けた地方都市の一例として宮城県気仙沼市を取り上げ、地域の文化や産業が存続の危機に直面した中で再び地域を復興させようとしている取り組みの例を学ぶ。 教科書・指定図書 特になし
第12回	テーマ(何を学ぶか):小括と地域調査のテーマ・調査方法の検討 内 容:第11回までの授業内容を振り返るとともに、以降の回における演習形式の授業の進め方を検討する。主に、これまでに紹介してきた事例を講師がどのように調べたかを復習した上で、受講者同士で意見交換もしながら、青森市が持つ個性について各自の調べるテーマと調査方法を授業内で検討する。 教科書・指定図書 特になし
第13回	テーマ(何を学ぶか):青森市の基礎情報と地域調査の企画検討 内 容:各自で決めた調査テーマとそれに関わる青森市の基礎情報、および青森市が持つ個性についてどのように調べるか、調査企画書にまとめて各受講者から発表してもらう。発表内容に基づき、受講者同士で意見交換も行い、さらに企画を具体化する。 教科書・指定図書 特になし
第14回	テーマ(何を学ぶか):地域調査の進捗報告 内 容:調査の中間結果報告として、調査の進捗状況(現時点までに分かったこと、どのように調べたか、さらに調べたいこと、さらに調べものを進めていく上での課題など)を各受講者から発表してもらう。発表内容に基づき、受講者同士で意見交換も行い、調べものを進めていく上での課題を解決できるよう目指す。 教科書・指定図書 特になし
第15回	テーマ(何を学ぶか):地域調査の結果の最終発表、総括 内 容:調査の最終結果報告として、調査結果(現時点までに分かったこと、どのように調べたか、今後さらに調べたいことなど)を各受講者から発表してもらう。発表準備を通じ、青森市が持つ個性は何か、その個性がどうやって成り立っているか、地域振興にどのようにつながりうるか各自検討する。受講者全体での意見交換も行う。 教科書・指定図書 特になし
試 験	レポート課題の提出(詳細は授業内で説明する)